

詩篇 111 篇

《出エジプトの御業》

- 1 ハレルヤ。私は心を尽くして主に感謝しよう。直ぐな人のつどいと集会において。
- 2 主の**みわざ**は偉大で、**みわざ**を喜ぶすべての人々に尋ね求められる。
- 3 その**みわざ**は尊厳と威光。その義は永遠に堅く立つ。
- 4 主は、その**奇しいわざ**を記念とされた。主は情け深く、あわれみ深く、

《カナンへの導きの御業》

- 5 主を恐れる者に食べ物を与え、その契約をとこしえに覚えておられる。
- 6 異邦の民のゆずりの地を、ご自分の民に与え、彼らに、その**みわざ**の力を告げ知らせられた。
- 7 **御手のわざ**は真実、公正、そのすべての戒めは確かである。
- 8 それらは世々限りなく保たれ、まことと正しさをもって行われる。
- 9 主は、御民に贖いを送り、ご自分の契約をとこしえに定められた。主の御名は聖であり、おそれおおい。

《結語》

- 10 主を恐れることは、知恵の初め。これを行う人はみな、良い明察を得る。主の誉れは永遠に堅く立つ。

詩篇 111～118 篇は「ハレルヤ詩篇」と呼ばれ、「ハレルヤ」で始まるもの (111, 112, 113) と「ハレルヤ」で終わるもの (115, 116, 117) のまとまりとなっています。今日扱う 111 篇は二十二個のヘブル語アルファベット文字が各節二つずつ織り込まれている「いろは歌」となってもいます。このように「技巧的」であることから、本篇が作られた年代はかなり遅いと考えられており、バビロン捕囚の途中か解放後という見方が強いです。

1～4 節には「**みわざ**」ということばが繰り返し出てきます。何の御業であるかは明言されていませんが、4 節にある「**記念**」との関わりから過越の祭 (出 12 章) が念頭にあると思われれます。つまり、出エジプトを通して示された神の救済の御業を誉め讃えているのです。そして、この出来事は「型」となって、後の時代のバビロン捕囚からの解放をも暗示していると言えるでしょう。本篇が捕囚の苦しみの中で歌われたものだとすると、神が必ずやその状況から民を贖い出してくださるという信仰が込められていると言えます。

1 節には、詩人が礼拝の場で主に感謝をささげている様子が描かれています。「つどい(τιο / ソード / 議会)」、「集会 (ητιν / エーダー / 信者の集まり)」と言葉が使い分けられていますが、これらは礼拝に人々が集まっていることを表しているでしょう。その集まりにおいて、主が救済者であられることが高らかに歌われているのです。エジプトを襲った十の災

いは、エジプト人に主の「尊厳」と「威光」を現し、神の「義」（正義）の裁きが行なわれました。4 節後半に出てくる「主は情け深く、あわれみ深く」という表現は、神がイスラエルにご自身を示されたご自身の倫理的属性の一部です。

【主】、【主】は、あわれみ深く、情け深い神、怒るのにおそく、恵みとまことに富み、恵みを千代も保ち、咎とそむきと罪を赦す者、罰すべき者は必ず罰して報いる者。父の咎は子に、子の子に、三代に、四代に。（出34:6）

5～9 節の中にも「みわざ」と関係のある表現が二度出てきます。ここでもやはり主の救済の御業が念頭にあるのですが、次は出エジプト後の継続的な養いについて語られているようです。まず5 節では「食べ物」に関する言及が出てきますが、これは荒野での40 年間マナやうずらで主が民を養ってくださったことを伝えているのでしょう。また、6 節で「異邦の民のゆずりの地を…与え」と言われているのはカナンの地への帰還を指し、5 節と9 節で繰り返されている「契約」は荒野での道中シナイ山で結ばれた神と民との契約を表していると思われます。出24 章に出てくる「血の契約」は、主がご自分のいのちに懸けてこの契約を守り通すと約束してくださったことを意味します。だから、「その契約をとこしえに覚えておられる」（5 節）、「ご自分の契約をとこしえに定められた」（9 節）ということばには重みがあるのです。主はご自分の「真実」「公正」（7 節）、「まこと」「正しさ」（8 節）、「御名の聖」（9 節）によってこの誓いを守り通してくださるのです。

10 節の「主を恐れることは、知恵の初め」という表現は、旧約聖書の中で度々登場します（ヨブ 28:28、箴言 1:7, 9, 10、伝道 12:13）。本篇の文脈では、主が救い主であることを知ることが言われていると捉えることができるでしょう。そして、その救い主は、ご自身の深い倫理的属性に基づいて、その救いを終わりまで全うしてくださるのです。

最後に、本篇を読むときにキリスト者が必ず思い起こす聖書箇所があることを加えておきたいと思います。それは、主イエスが弟子たちと交わされた契約、最後の晩餐の記事です。主は、弟子たちがご自身の受難のときに一人残らず逃げてしまうことを承知の上で「血の契約」を結ばれました。これは一方的な恵みの契約であり、それは主イエスの血が流されることによって全うされたのです。出エジプト記でご自身を現された神は、主イエスにおいて最も顕著にご自身を啓示してくださいました。私たちとも同じ「恵みの契約」「血の契約」が結ばれていることを心に刻みたいと思います。主は我らの救い主。ハレルヤ！